大会長講演　「第四次産業革命と産業保健制度」

報告者：株式会社 oneself.　代表取締役　小橋正樹

第３回大会の大会長講演として、神田橋宏治氏（合同会社 DB-SeeD）が座長を務め、第四次産業革命が与える社会の変化、産業保健制度の変化とあり方について、林剛司氏（株式会社日立製作所 産業保健推進センタ）が「第四次産業革命と産業保健制度」と題した講演を行った。

まず、経済産業省「産業構造部会新産業構造部会」(2017) などの資料をもとに、IoT や AI 等の普及、さらには生産年齢人口の減少や働き方改革等による社会の変化により、産業構造や就業構造が劇的に変化する可能性があると紹介した。

それを受けて、第四次産業革命では、付加価値を生み出す競争力の源泉が「モノ」や「カネ」から「ヒト（人材)」に移行しており、人材への投資によって生産性を向上させていく必要があると意見を示した。この中で、企業から注目されている取り組みとして、人的資本経営、HR トランスフォーメーション、ジョブ型人材マネジメントを提示し、自社の取り組みを事例に①ジョブ＆タレントマネジメントへの転換②ジョブ型を活用した“労働移動の円滑化”　③ジョブ型を活用した“リ・スキリング”の解説を行った。

最後に、これらの現状や取り組みを踏まえて、第四次産業革命以降は、労働者と企業の両者に大きな変化があるとし、管理職の負担や訴訟の増加、メンタルヘルス不全者の増加等の懸念点を提示した。加えて、産業保健スタッフの BPO 化など、産業保健制度にも変化が起こる可能性があるとして、将来的には母子保健、学童保健、職域保健、地域保健のデータを時系列的に管理・活用する PRH (Personal Health Record) の構築が望ましいと意見を示した。

講演後は、終身雇用を前提としない働き方へと変化していく中で、労働者の健康保持増進の対策、産業保健サービスのあり方など、会場との質疑応答も含め、意見交換が行われた。